

すべての拉致被害者救出を!!

解決を願う県民一人ひとりの声は何よりも強い力となり、拉致問題の早期全面解決を実現します。

■北朝鮮当局による拉致問題の概要

1970年代から1980年代にかけて、多くの日本人が不自然な形で姿を消しました。これらの事件の多くには、北朝鮮当局により拉致(注)された疑いが持たれています。日本政府は、17名を拉致被害者として認定していますが、この他にも拉致を否定しきれないケースがあります。

(注)工作員の身分偽装や教育係として利用するため強制的に連れ去ること

2002年9月に北朝鮮が日本人拉致を初めて認め、同年10月に5人の拉致被害者が帰国しましたが、他の被害者については、未だ北朝鮮から安否に関して納得のいく説明がありません。

■拉致被害者及びその御家族の状況

拉致事件は、既に発生から非常に長い歳月が経過しています。多くの被害者が、無理やり家族と引き離され、北朝鮮に囚われたまま現在も救出を待っています。また、帰国を待ち続けている御家族にとってもあまりにも長くつらい日々が続いています。

■鳥取県内の拉致被害者等

◆政府認定拉致被害者



まつもと きょうこ
○松本京子さん(米子市出身、当時29歳):1977(昭和52)年10月21日、自宅近くの編み物教室に向かったまま行方不明。

◆特定失踪者 (特定失踪者問題調査会(民間団体)の公表資料による)

ふるいちみずこ
○古都瑞子さん:1977(昭和52)年11月14日、普段着で出かけたまま行方不明。自宅には旅行の切符やポケベルも置いたまま。

やくらとみやす
○矢倉富康さん:1988(昭和63)年8月2日、一人で出漁して行方不明。元精密工作機械製作のエンジニアであった。

うえだ えいじ
○上田英司さん:1969(昭和44)年11月4日、「京都に行ってくる」と下宿家主に言ったまま行方不明。荷物は紙袋一つ。

◆拉致の可能性を排除できない事案に係る人(鳥取県警察本部の公表による)

きまちはやと
○木町勇人さん:1975(昭和50)年8月25日、京都府宇治市の下宿先を出て以降、行方不明。

県民の皆様のご支援をお願いします。

ブルーリボン



ブルーリボンは拉致被害者の生存と救出を信じる意思表示です。

ブルーは、拉致被害者の祖国日本と北朝鮮を隔てる「日本海の青」と被害者と御家族を唯一結んでいる「青い空」をイメージしています。

「救う会」、「家族会」署名運動

■拉致被害者家族連絡会(家族会)と北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会(救う会)では署名運動に取り組んでいます。

このチラシの裏面が署名用紙となっておりますのでご活用ください。

また救う会のホームページより署名用紙をダウンロードすることができます。

救う会ホームページアドレス <http://www.sukuukai.jp/>

下記鳥取県人権局のホームページにもリンクを掲載しています。

鳥取県地域社会振興部人権尊重社会推進局 人権・同和対策課

電話:0857-26-7592 ファクシミリ:0857-26-8138

HPアドレス:<https://www.pref.tottori.lg.jp/rachi/>

